

狂情歌

松下 幹生

篠突く雨に
着のみ着のまま 人目を避けて
手に手を取って 裸足で逃げる
世間が辞さぬ 関係（あいだ）の二人
炭焼き小屋に 密（ひそ）み入り
濡れた身体を 抱きしめて
手を握り 肩に齒をたて 息殺す
行く当てのない 修羅の道行き

衣を脱いで
火も起こせずに 命火燃やす
熱い口唇 うごめく身体
殺那の情を 燃え上がらせて
心の芯も 熔けるよな
道にはずれた 恋に酔う
冷めやらぬ 燃え立つような 燻（くすぶ）りに
互いを求め 奈落に落ちる

ああ～あ 天よ地よ

我らと共に 滅びらむ（ん）
互いの小指 糸で結（ゆ）い
蛇の様（よ）に 身体を巻き付け 求め合う
共に墮ち行く 修羅の道行き